

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2006～2008
 課題番号：18520079
 研究課題名（和文） モダニズム期の印刷メディアとグラフィックデザインの越境に関する国際比較研究
 研究課題名（英文） International and comparative study on the trans-bordering aspect of printing media and graphic design in modernism.
 研究代表者
 井口 壽乃
 埼玉大学・教養学部・教授
 研究者番号：00305814

研究成果の概要：1930年代の芸術家バイヤー、チヒョルト（ドイツ）、モドレイ、ノイラート（オーストリア）、ストナー（チェコスロヴァキア）の英国および米国への亡命・移住によってニュー・タイポグラフィ、アイソタイプ、写真広告などのグラフィックデザインの理論と技術が移植され、戦後デザインの基盤形成を果たした。その際パーシー・ランド・ハンフリーズ社、スイーツ・カタログ会社が重要な要となった。研究成果はシンポジウム「越境のグラフィズム」開催と論文集『グラフィックデザイン 1930』Fuji Xerox (2008)にまとめ、一般に公表した。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,500,000	0	1,500,000
2007年度	1,600,000	480,000	2,080,000
2008年度	300,000	90,000	390,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	570,000	3,970,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学 美学・美術史

キーワード：デザイン史、グラフィックデザイン、モダニズム、印刷メディア、越境

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は研究課題「両大戦間期における中東欧のグラフィックデザインに関する歴史的研究」（平成16-17年度科研費、萌芽研究）に基づき、グラフィックデザインとナショナル・アイデンティティの関係を調査・研究してきた。この研究過程で、中東欧の芸術家たちが西側諸国へ亡命・移住し、当地の固有な文化と結びつき、独自の視覚表現を創造してきたことが解明された。彼らの視覚表現は①日本のデザイン運動に重大な影響を与え漢字文字の新しい活版印刷を促したこ

と②アメリカのモダンデザイン運動に拡散していったことが浮き彫りにされた。この研究をさらに発展させたのが、本研究である。

2. 研究の目的

本研究はモダニズム期のグラフィックデザインについて、モダニズムの芸術思想に基づき、印刷技術と媒体、写真とグラフィズム、活字とタイポグラフィ、情報グラフィックスの観点からグラフィックデザインの全体像をつかむことを目的としている。特に以下の4点について解明する。

- (1) アヴァンギャルド芸術運動における映像と活字の融合というグラフィズムの手法がどのように応用されたか。
- (2) デザイナー組織、印刷業界の国際性はいかに獲得されたか。
- (3) 日本における欧米の方法論の受容はいかに行われたか。
- (4) 芸術家の越境による「地域性」はいかに「国際性」に変容したか。

3. 研究の方法

(1)研究代表者と分担者は、表現手段に関する以下4つのグループに分かれ調査・研究をすすめた。()は担当者。

- ①印刷手段と媒体(井口・菅)
- ②写真とグラフィズム(井口・菅)
- ③活字とタイポグラフィ(山本)
- ④情報グラフィックス(伊原)

資料調査は2006年度にヴィクトリア・アンド・アルバート博物館、英国(井口)、アウトルック博物館、英国(伊原)、パリ装飾美術館、仏国(菅)にて、2007年度にセント・ブライド印刷図書館、英国(山本)、ハンガリー・ナショナル・ギャラリー(井口)、大阪中之島図書館(西村)、富士ゼロックスコレクション、宇都宮美術館(井口、西村、菅)、多摩美術大学美術館(山本)にて、2008年度にベオグラード国立博物館、国立図書館、リュブリアナ演劇博物館(井口)にて実施した。

(2)調査結果に基づき、中東欧の芸術家が英国や米国へ亡命・移住し、あるいは日本で受容された際、異なる歴史や文化をもつ土地での表現活動において、それまで培った国民主義的表現がどのように変容され国際性を獲得したかを検討した。

(3)個々の芸術家に関する未研究部分を補完し、グラフィックデザインの全体像を解明した。

4. 研究成果

本研究課題の主要な成果は、モダニズム期の特徴としてこれまで議論されてきた「地域性」と「国際性」の問題を、思想と文化の越境と重ねあわせ、ナショナルな表象が国際性へと変容・拡大する様相が解明された点にある。グラフィックデザインの表現形式(①印刷手段と媒体②写真とグラフィズム③活字とタイポグラフィ④情報グラフィックス)と生産品(書籍、ポスター、サイン・ピクトグラム、チラシや冊子)は相互に関係し、芸術家の国際組織と印刷業界の国際性の獲得を通じて、世界的規模で拡大するグラフィックデザインの基盤が形成された。

2年目に開催したシンポジウム「越境のグラフィズム：1930」(六本木ミッドタウン、2007年11月3日)では分担者ならびに海外

研究協力者のジェレミー・エンズレイ教授(王立美術大学院、英国)による研究報告が行われた。以下は報告内容である。

(1)ヨーロッパのデザイン思想のアメリカへの波及について、アメリカへ亡命したチェコ人のラディスラフ・ストナーの仕事を中心に、欧州と米国の歴史的、社会的背景の違いを比較しつつ検証した。ストナーはL. モホイ＝ナジ、チヒョルト、カレル・タイゲの理論と深く関係し、国際展覧会と教育活動が主たる仕事であったが、亡命後の1940年代以降のニューヨークでは、アメリカの大量消費型社会において「スイーツ・カタログ・サービス」会社との協働により、グラフィックデザインをプロダクトデザインの領域へと結びつけ、アメリカ型デザインを新たに誕生させることとなった。同時期にアメリカへ亡命したモホイ＝ナジの『ヴィジョン・イン・モーション』とジョルジュ・ケペシュの『視覚言語』では、ヨーロッパの視覚伝達理論が述べられているのに対して、ストナーの『ヴィジュアル・デザイン・イン・アクション』では、アメリカ型の「情報デザイン」という概念が確立された。

(井口壽乃「チェコスロヴァキアのモダニズムとアメリカへの越境：ラディスラフ・ストナーのグラフィックデザイン」)

(2)情報グラフィックスの問題を、アイソタイプ運動の担い手のルドルフ・モドレイとオットー・ノイラートの関係に注目し、アメリカへの波及について検証した。モドレイは、ノイラートによって設立されたウィーン社会経済ミュージアムに関係したのち、1930年に渡米し図像統計による独自のビジネスを展開した。戦後、彼が設立した「グリフス」社は、シンボルの国際的な標準化に尽力し、日本の勝見勝や太田幸夫とも交流し、日本のデザイン界に少なからず影響を与えた。本研究ではウィーン社会経済ミュージアムのアメリカへの進出について、「サーベイグラフィック」誌、「視覚教育研究所」、「図像統計会社」設立の経緯の検証を通じて、ヨーロッパ型アイソタイプのアメリカ化の問題を論じた。

(伊原久裕「アイソタイプ運動のアメリカへの波及－1930年代におけるルドルフ・モドレイの活動をめぐって」)

(3)活字とタイポグラフィの越境に関しては、チヒョルトによるニュー・タイポグラフィ理論(1928)のイギリスへ影響について、1930年代イギリス製モダン・サンセリフ体活字を中心に検証した。パウアー鑄造所の〈フーツラ〉、クリングシュポール鑄造所の〈カベル〉、モノタイプ社の〈ギル・サン〉には、一定の

「時代性」が存在し、国際的に通用することを前提としていた。チヒョルトの前衛性が印刷の伝統国イギリスで、修正されつつ伝統へ歩みよって実用化された。

(山本政幸「1930年代イギリスにおけるニュー・タイポグラフィの導入」)

(4)印刷出版に関するイギリスへの越境については、ドイツ・バウハウスの芸術家の移住による功績が大きい。その際印刷会社パーシー・ランド・ハンフリーズ社は彼らに印刷物のデザインを依頼するのみならず、自社の建物の一部をスタジオとして開放し、展覧会の機会を与えるなどの支援活動を行った。マクナイト・コーファー、フランシス・ブリュギエールの展覧会およびデザインは、ハンフリーズ社を通じてイギリスの1930年代のデザイン界に与えた。さらにハンフリーズ社の印刷物『ペンローズ・アニュアル』と『フォーカス』誌は、チヒョルト、モホイ＝ナジ、ゲーディオン、ル・コルビュジエらの理論をイギリスに伝播する媒体となった。

(菅靖子「パーシー・ランド・ハンフリーズ社と越境のデザイナーたち：1930年代イギリスのモダニズム」)

(5)日本の欧風化と大衆文化の発展過程(大正期～昭和10年代)には、ファッション・プレートと化粧品広告、化粧品のパッケージデザインに、フランスのグラフィックデザインの強い影響がみられる。その際、中山太陽堂、資生堂のアル・ヌーボー調、アル・デコ調のデザインが、日本の化粧文化、女性の洋装文化の発展の媒体となった。(西村美香「日本の化粧文化に見られる西洋デザインの伝播」)

フランスの広告デザインの越境に関しては、研究の深化が求められるところであり、最終年度に連携研究者・吉田紀子(中央大学)を招聘して「20世紀初期フランスのポスターをめぐる広告について」の報告をうけた。

以上、国際的なレベルでグラフィックデザインに関する研究として東欧出身の芸術家に注目した研究では、数少ない研究のうちのひとつであり、国内においては唯一の研究である。(“Czechoslovak Avant-garde Design as Construction: The Czechoslovak Pavilion at the International Exhibition of Art and Technology in Modern Life, Paris, 1937”, Toshino IGUCHI, 6th.*International Conference Design History and Studies*, 査読有, 164-167 (2008))

最終年度の2008年度に調査の過程で発見されたベオグラード国立博物館、国立図書館(セルビア)、リュブリアナ演劇美術館(スロベニア)の所蔵品、ユーゴスラヴィアの雑誌関連については、国際的にみて未公開や研

究が浅いものも多く、一部は、2009年度に公表を予定している(Avant-garde Design Beyond Borders: The Slovene Constructivist Avgust Cernigoj, Toshino IGUCHI, The 3rd. International Association of Societies of Design Research 2009 October 19-22, COEX Seoul, 採択済)が、今後調査・研究の継続の必要がある。

さらに、国内でモダニズム期のグラフィックデザインに関する歴史研究についての国際的な視点でヨーロッパ、アメリカ、日本を比較した研究は、本研究が先端研究である。特に調査の過程で発見された国内の未公開のコレクションを含むグラフィック関連資料(富士ゼロックス株式会社、多摩美術大学、宇都宮美術館、横田茂ギャラリー、個人コレクション)には、歴史的価値のあるものが多く、それらによって日本の初期モダニズム期のデザインの欧米との関係が実証された。

(西村美香「日本の化粧文化に見られる西洋デザインの伝播」『グラフィックデザイン1930:版画、写真、タイポグラフィ、アイソタイプ』富士ゼロックス、2007)。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計10件)

- ①「仮想的電光建築にみるチェコ・アヴァンギャルドのデザイナーペシャークのライト・キネティック広告からクレイツァルの1937パリ万博パヴィリオンまで」井口壽乃『デザイン史学』デザイン史学研究会、第6号、査読有、87-105 (2008)
- ②“Czechoslovak Avant-garde Design as Construction: The Czechoslovak Pavilion at the International Exhibition of Art and Technology in Modern Life, Paris, 1937”, Toshino IGUCHI, 6th.*International Conference Design History and Studies*, 査読有, 164-167 (2008)
- ③“Invention of ‘Modern’ Japonism: national representation through ‘Sangyo Kogei’” Yasuko SUGA, 6th. *International Conference Design History and Studies*, 査読有, 64-67 (2008)
- ④「20世紀ポスターコレクションのアーカイブ作成・公開に関する研究(1)」山本政幸、大柳陽一、『多摩美術大学紀要』多摩美術大学、23号、149-154、査読無 (2009)
- ⑤Otto Neurath's Atlas "Society and Economy": Design, Contents, and Context, Hisayasu IHARA, Proceeding of the Conference "Emerging Trends in Design Research 2007", *International Association of Societies of Design Research*, CD-ROM, 2007.11. (査読有)

- ⑥「羽原蕭郎のエディトリアル・デザイン—そのモダニズム思想と国際タイポグラフィック様式の実践」西村美香『デザイン史学』デザイン史学研究会、第5号、査読有、37-79、(2007)
- ⑦ Herbert Bayer's book typography: the development of concept 'horizontal order' in the 1930s, Hisayasu IHARA, *design NET*, (韓国), 査読無、vol.108, 142-148, (2006.09) (原文韓国語) .
- ⑧「羽原蕭郎年賦 戦後日本デザイン界の一片—羽原蕭郎の歩み」西村美香、査読無、明星大学造形芸術学部紀要、第14号、13-30、(2006)
- ⑨ 'Red House and Asia: A House and its Heritage', Yasuko SUGA, Sonia Ashmore, *Journal of William Morris Studies*, vol.17 no.1 (Winter 2006), 5-26.
- ⑩ "Modernism, Commercialism and Display Design in Britain. The Reimann School and Studios of Industrial and Commercial Art", Yasuko SUGA, *Journal of Design History*, Volume 19 - Number 2 - Summer 137-154, (2006) 査読有

[学会発表] (計6件)

- ① Toshino IGUCHI, Czechoslovak Avant-garde Design as Construction: The Czechoslovak Pavilion at the International Exhibition of Art and Technology in Modern Life, Paris, 1937, 6th. International Conference Design History and Studies, October 26 2008, Osaka University.
- ② Yasuko SUGA, Invention of 'Modern' Japonism: national representation through 'Sangyo Kogei, 6th. International Conference Design History and Studies, October 26 2008, Osaka University.
- ③ Hisayasu IHARA, Otto Neurath's Atlas "Society and Economy": Design, Contents, and Context, Proceeding of the Conferene "Emerging Trends in Design Research 2007", *International Association of Societies of Design Research*, 2007 November, Hong Kong Polytechnic University.
- ④ Masayuki YAMAMOTO, Measuring Harmony of Type Mixture: Sanserif Typefaces in Japanese Typography, *Association Typographique Internationale*, 2007, September 16, University of Brighton, UK.
- ⑤ 山本政幸、ヤン・チヒョルトの1920年代における前衛的装丁デザインの比較考察、日本デザイン学会第54回研究発表大会、2007年6月、静岡文化芸術大学
- ⑥ 菅靖子、両大戦間期イギリスにみる「絵画的」なポスター、日本デザイン学会第54回研究発表大会、2007年6月、静岡文化芸術

術大学

[図書] (計4件)

- ① 菅靖子『モダニズムとデザイン戦略；イギリスの広報政策』ブリュッケ (2008) 全325頁
- ② ジェレミー・エンズリー、井口壽乃、伊原久裕、菅靖子、山本政幸、西村美香『グラフィックデザイン1930：版画、写真、タイポグラフィ、アイソタイプ』、富士ゼロックス (2007) 全101頁
- ③ 「オットー・ノイラート：世界の表象展」図録、八束はじめ、伊原久裕、寺山祐策、本庄美千代、執筆担当：「象形文字からアイソタイプへ」89-98、および作品解説、査読無、武蔵野美術大学附属資料図書館 (2007)
- ④ デイヴィッド・クラウリー著、井口壽乃・菅靖子訳『ポーランドの建築・デザイン史』彩流社、査読有 (2006) 全285頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

井口 壽乃 (IGUCHI TOSHINO)
埼玉大学・教養学部・教授
研究者番号：00305814

(2) 研究分担者

伊原 久裕 (IHARA HISAYASU)
九州大学・芸術工学研究科・准教授
研究者番号：20193633
西村 美香 (NISHIMURA MIKA)
明星大学・造形芸術学部・准教授
研究者番号：60352928

山本 政幸 (YAMAMOTO MASAYUKI)
多摩美術大学・美術学部・准教授
研究者番号：80304145

井田 (菅) 靖子 (IDA (SUGA) YASUKO)
津田塾大学・学芸学部・准教授
研究者番号：20312910

(3) 連携研究者

吉田 紀子
中央大学・総合政策学部・准教授
研究者番号：20433873

(4) 研究協力者

ジェレミー・エンズレイ
英国王立美術大学院・教授